

平成21年(2009年)7月22日(水曜日) みやぎ



組み立てた衛星通信用のアンテナを運ぶ
栗原市職員

情報網復旧に経験反映

栗原市と慶大は21日、同市鷹沢の細倉マインプラザで、大規模災害で寸断されたインターネットなどの情報通信環境を被災地で早急につくり直せるシステム「ライフラインステーション」の設置を体験するワークショップを開いた。

岩手・宮城内陸地震の被災現場や避難所で業務に当たった市職員約10人が参加。開発主体の慶大は、被災地での経験に基づき市職員

慶大開発のシステム

栗原市で設置体験

システムを導入を決めている市は、昨年の震災直後に1週間後、1カ月後の被災地での状況に照らし、それぞれの研究センターのスタッフが機械の扱い方を指導した。停電を想定し、市職員が車のバッテリーから電源を確保。機材を組み立て、衛星通信の設備を整えた。エリ純教授は「栗原市の経験と慶大の技術を合体させた。全国の自治体で使えるシステムで送るシステムの説明も受けた。」と語った。

本記事は、河北新報社の許諾を得て掲載しています。無断での転用・複写を禁じます。